

# フォーカス FOCUS



病院では毎年さまざまな職種スタッフが入職し、働いています。これからたくさんの方の知識と経験を積み、雲南市立病院というステージで患者さんのために活躍していく新入職員にフォーカスし、それぞれの担当業務や仕事への思いなどを紹介します。

## 新入職員紹介

地域医療に貢献できる薬剤師をめざして

薬剤師

あつた ゆうだい  
熱田 侑大



### 薬剤師をめざしたきっかけは？

元々、医療職に就きたいと漠然と考えていました。高校時代に化学が好きだったため、職業に生かしたかったこと、また、島根県では薬剤師が不足していると聞いたことがあったため、薬剤師をめざそうと思いました。

### 雲南市立病院の魅力はなんだと思いますか？

他職種間でのつながりが深いと思います。カンファレンス（会議）や委員会などのさまざまな場で情報を共有できることが魅力です。

### 仕事には慣れましたか？

他の職場を5年以上経験してから、こちらの職場に来ました。初めは以前の職場との違いに戸惑うこともありましたが、周囲の方々のおかげで、今ではすっかりこちらの職場に慣れることができました。

### 職場の雰囲気はどうか？

薬剤科内では気軽に分からないことが相談できます。同年代はもちろん、上司も話しやすい人ばかりなので、自分の意見や要望が言いやすいです。科長の家でバーベキューなどをすることもあり、良い雰囲気の職場です。

### 仕事をするうえで嬉しかったことはありますか？

患者さんから、「薬の説明が丁寧だった、分かりやすかった」などの言葉をいただいた時です。いただいた言葉で、これからも薬剤師として頑張ろうという気持ちになっています。

### 今後の目標を教えてください

私の出身は雲南市です。自分の地元である雲南市で薬剤師として働くことは一つの目標でした。地域の医療に貢献できるように、知識を習得し、薬剤師としてスキルアップしていきたいです。よろしくをお願いします。

### 私のとある一日

- 8:30 出勤  
調剤業務、持参薬鑑別  
抗がん剤調製
- 12:00 休憩
- 13:00 注射業務
- 14:00 病棟業務
- 16:30 糖尿病サポートチーム委員会
- 17:15 退勤



薬の説明をしている様子



調剤業務の様子

# 雲南病院だより

## アトピー性皮膚炎の生涯管理

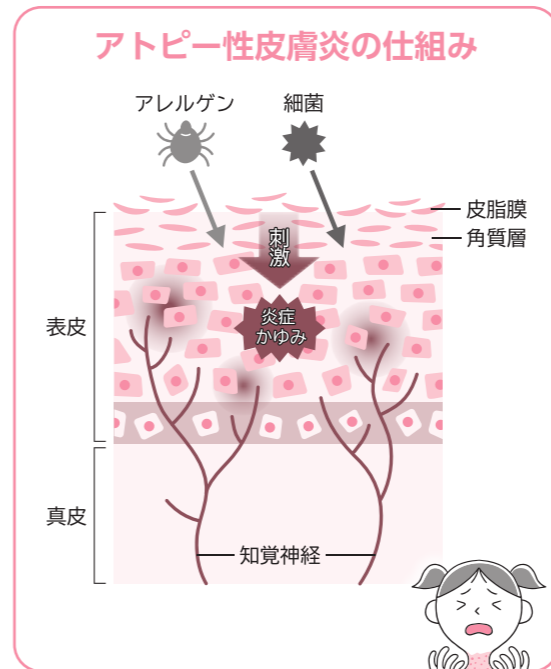


診療局 皮膚科診療科部長 大藤 聡

### アトピー性皮膚炎とは

アトピー性皮膚炎は乳児や幼児の時期に発症することが多いです。

アトピー性皮膚炎は症状がよくなくなったあとまた悪化することを繰り返します。治療はステロイド軟膏やタクロリムス軟膏、デルゴシチニブ軟膏のような炎症を抑える薬を使用することが中心となります。また、乾燥に対する保湿、スキンケアなどを行います。アトピー性皮膚炎は乳幼児期に10人に1人程度の有症率があるといわれています。そして中学校、高校の時期



に少し減ります。20歳前後にまた発症してくる場合があります。

### アトピー性皮膚炎の特徴は？

アトピー性皮膚炎は年齢により皮疹のでやすい部位が異なります。乳児期には顔面を中心に、そして四肢、体幹へ広がって行きます。乳幼児期には膝のくぼみや肘のくぼみの治りにくいかゆみの特徴です。

成人期に入ると上半身、顔面の底赤い色調が特徴となります。

### 治療は？

アトピー性皮膚炎では環境整備、薬物療法、保湿の継続などが必要となります。治療の最終目標は症状がないか、あっても軽く、日常生活に支障なく、薬物療法のみならず必要としない状況に到達してその状態を維持することです。またこのレベルに到達しない場合でも、症状が軽度で、日常生活に支障をきたすような悪化が起こらない状態を維持することを目標とします。

環境の中で特に大切なのは汗です。しっかりと汗をかき、発汗後は時間をおかず、シャワーなどで洗い流すことが推

奨されています。近年、薬物療法では新規内服薬や注射薬が使用できるようになっています。また症状が落ち着いたときには炎症をおさえる外用剤を間をあけて塗り続けることによって、症状の悪化を防ぐ予防的な治療が「プロアクティブ治療」といって重要視されています。

皮膚炎を起こしておらず異物の皮膚からの侵入を許さないことを皮膚のバリア機能が保たれているといえます。バリア機能が壊れている皮膚から物質が侵入するとその物質に対してアレルギーが成立しやすくなるのが分かっています。そのため、保湿をして皮膚のバリア機能を整えることはアトピー性皮膚炎から食物アレルギー→気管支喘息→アレルギー性鼻炎のようなアレルギーの進展を防ぐ点から重要視されます。



